

まり御はなしして居るうちに、松茸がうりきれ
て仕舞いますといけませんから、まづ此位にし
ていただきます、

とうふは、松茸、其他たけるおの毒をけす、と
いつて必ずつかひます、

家庭に於ける所感(承前)

長野縣 飯塚忠次郎

(七) 小兒と疑問

か子さんのあるお家庭などでは既に御承知のこと
であるかと存じますが、とかく小兒はみたりきい
たりするごとによく疑問を致しますもので「草は
どうしてはえるの、ごはんはどうしてこさうの」
と、それはそれは種々様々な自分ではわからない事
は何によらず一日の中に問ひかけます、それにた

いして世間一般の家庭の人達は親切に丁寧にい
ち其間を空にせず、答てやるといふゆかしい
心をもつてゐるでしょうか、私はもつてゐられる
とはつきりと申たいがなにかさしてそらいふとは今
日までの視察によつてみますと断然出来ませぬ、
何故で御座いませうか、それは小兒が疑問を發
すると多くの家人は「そんなとは誰れにかさ」と
かいふて、一向とりあひませぬのみかうるさい様
な顔色をして「おまへはよくいろんなことを、さく
こだねえ、しつこいよ」と何たる同情のない言葉で
御座いませう、小兒が疑問をはつするのは實に
智識を啓發する端緒ではありませぬか、疑問を發
する小兒の心をかわいゝと思ひになりませぬか
塵つもつて山を成し一滴の水も集つて大河をなす
のたとへのように、此様ないとさゝいな事でも

丁寧ていねいに満足まんぞくするようように答こたへてやると否いなとは、小兒こども智育ちいくの進歩しんぱの上うへに大なる影響えいきやうの生せいじて來るとは當然ぜんぜんな道理道理で御座ございますから、如何いかなる場合ばあひに於おけるも事情じじようのゆるすかぎりかぎりは問とひをかけられたならば、言葉ことば徐々じゆじゆに簡短かんたんに明瞭めいりやうに理解りかいするようように説明せつめいしてやらなければなりません、それをうるささいとかなんとか云いふてせつかく小兒こどもが發はつした問とを無なにしてはなりません、わからなかつた時ときは小兒こどもががてんするまで説明せつめいしてやつてほしい、たとへ一寸ちゆうとんしたとがらであつても丁寧ていねいに答こたへ教おしへてやるのが家人かじんとして當然とうぜんなすべきの義務ぎむと考かんがへます問とをかけられたときに丁度ちやうど自分が手てをはなされぬしごとをしてゐた場合ばあひには「今はごようがあるからすんだらお話しはなをしてあげよう」と言葉ことばかごそかに言いひ渡わたして置いて、床とこにつくときかなにか開あき

のあつたときに必ず説明せつめいしてやるように、そうすると小兒こどもはそれだけ智育ちいくが増進ぞうしんすることのでつまるところは其小兒そのこどもの幸福こうふくと云はなければなりません、然しかしいちがいに小兒こどもの發はつする疑問ぎもんをなにもかも答こたへてやれとは申しませんが、疑問ぎもんにもいろいろ御座ございますから惡わるいとみとめたならなるべく小兒こどもをしてそんな疑問ぎもんをはつせしめないように心掛こころがけていたゐて、之これは有益ゆうえきな疑問ぎもんだとみとめたならばどしどし説明せつめいしてやつてもらいたいので御座ございます、それゆへ事情じじようのゆるすかぎり小兒こどもをして少すくくとも益えきのある様ような即ち小兒智育こどもちいくのいかいたくの小ちよともなる疑問ぎもんであると發見はつけんしてなら、何卒なんぞはなしてやつてくださいますし、之これに反はんしましてこんな疑問ぎもんはちつとも益えきにならない害がいがあるともとめたときには、よく小兒こどもにわかるようにいゝき

かして此後そんな疑問を發せしめぬようにせねば
いけません、小兒をしてかくのごとく疑問を生ぜ
しむる原因は周圍にある事物の大に力あるもので
す、たとへば其家の家風は勿論のことこれにつれ
て、住所の位置、其家に入出入する人の品性の如何
によるものでありますから、能ふかぎり小兒をし
て悪いことを見せぬよう聞かせぬように、平素か
ら注意せねばいけません、小兒をして完全な教育
をほどこしたいと思ふたなら其任にあたらるゝ其
人から先づ第一に自分のことを三省すべきであ
る、家庭の誰彼の論なく家人たるものは家庭教師
の任があるから小兒の疑問のことばかりでなく萬
事忠實に熱心にやつてはしいのである。

(八) 小兒と菓子

小兒が行儀をよくした時、學校から歸途した際、

御褒美にかいふて世の親達が小兒に惠與する菓
子は家庭教育上からみても、甚だ關係のある物品
で御座いますから、何卒之れが撰擇には大に心を
注いでなるべく害にならないものを特にえらんで
與へなければなりません、現今普通市内の菓子店
の製造人は所謂公德問題を解せぬせいか、忠實で
ないか同一の品物にも時に依つて良否が御座いま
すゆへ最も信用のある店に行つて新しいものを買
ひ求めて、適宜にやらねばいけません、そうである
のをかゝる事についてはとんと否いつこうにお心
にかけられないためか、世の多くの親達は菓子と
いふなのつくものならばなんでござれ、小兒にあ
たへるといふ風習がどうもわりがちなようにおみ
うけするが、あれは衛生上からみても家庭のうへ
からかゝるがへてみても尤もわるいことであると思

ひます、それがために腸胃をいためたりすることはあまりめづらしくない事です、菓子によらず食物と名のつくものは、適當なる種類の物品を以て之に供し、適度な分量を守つて之を用ゐ、適切なる時間に於いて與へないからです、身体の成長を計る所以の方策と成れるものは重に飲食に供給する品物でありますから、よほど注意が肝要と存じます。(未完)

武田錦子君の女子教育談

先月十七日、東京市教育會議演會の席上、武田錦子女史の演説の中、女子の學校教育に關する一節は、殊に興味深ければ左に紹介することに致しました。

『いまの女子を教育しやうとする父母達は、其の兒の學問知識の發達することを望まないで、學校を卒業したといふ證書がほしさに一生懸命である

現に、澤山の女生徒の中には、どうも成績のよくないものがあります、これは勉強が足らない特に家庭にての復習が不十分であると思ふのでわざとこの旨を傳へて、親達に注意をうながしますと、其返事はまことに意外千萬で、『自分の娘は、何も學問が上達しなくともよるしい、どうか斯う卒業免狀さへとれるなら結構でゐます』とすげなく言ひきるので真に意外に思ひます、がこれは元來親達が娘を學校にやる目的が誤つて居る故であります。

如何いふ目的で女兒を學校に通はすかといふ、嫁入の看板をふやしたいためであります、今日ではだんくくと教育ある女兒を嫁にえらぶものが多くなつたので、縁談のことについて女兒をさがすものは、大概は學校卒業の有無を訊ねます。だから